

■日本館イベント広場参加者決定

このたび、日本館の「イベント広場」に参加する自治体および団体が決定しました。

ミラノ万博の会期中、日本館2階に設置されるイベント広場では、ステージ等を活用して、食関連産業や食による町おこしに取り組んでいる自治体や、様々な食に関する取り組みを行っている団体等に、日本各地の食に関する多様な知恵と技、伝統文化等を紹介するイベントを実施していただくものです。

この決定を受けて、8月7日に記者発表会を行い、加藤辰也 ミラノ万博日本政府代表、桐山登士樹 日本館広報・行催事プロデューサーが、イベント広場のコンセプトや参加自治体・団体の紹介を行い、多数のメディア関係者に向けて「オールジャパンで日本の食や食文化の多様性を伝えたい」との意気込みを伝えました。

会場では日本館の模型が展示されたほか、参加自治体等から提供いただいたポスターがずらりと並びました。

イベント広場参加者は次ページに掲載しております。

各参加者の日程や実施内容については、今後詳細が決まり次第、本サポーター通信でもお知らせしてまいります。



イベント広場（イメージ）



記者発表会の様子



＜日本館イベント広場参加自治体・団体一覧＞

時期	自治体・団体名	イベント名	時期	自治体・団体名	イベント名
2015年 5月	裏千家	茶の湯 - 日本文化のポータルサイト -	8月	静岡県／山梨県	富士山と多彩な食材 静岡山梨ウィーク (仮称)
	「本場の本物」ブランド推進委員会	四季折々の気候風土と古くから伝わる伝統製法と哲学により育まれた地域伝統食品「本場の本物」		愛知県外国人受入協会	日本の伝統文化公演
	NPO法人モータースポーツ子ども支援協会	JAPAN NINJA SAMURAI & MILANO EXPO Collaboration Event (仮称)		香川県	名称検討中 (香川の県産品及び観光の魅力の発信)
	山口県	名称検討中	9月	宮崎県	伝統と最先端技術の融合により新しい食を創造するM I Y A Z A K I (仮称)
	NPO法人TABLE FOR TWO International	日本とイタリア 食の叡智の融合 "Peace Kitchen Academy"		徳島県	名称検討中
	佐賀県	佐賀県の日 (仮称)		大阪市	姉妹都市大阪から魅力発信～Buon giorno da OSAKA!～ (仮称)
6月	日本陶磁器産業振興協会	日本の器 日本の食卓		日本酒造組合中央会	日本の國酒の魅力 (仮称)
	京都府／京都市／京都商工会議所等	名称検討中		一般社団法人日本麺類業団体連合会	職人による手打そばと天ぷらの実演・試食 (仮称)
	JAグループ①	各国の「農業生産の多様性」と「食生活の多様性」を認め合い尊重する		一般財団法人燕三条地場産業振興センター／三条市／燕市 (新潟県)	燕三条の技と食 (仮称)
	伊賀市 (三重県)	伊賀流忍者の精神と食文化		公益社団法人日本茶業中央会	おいしい日本茶を、日本茶文化と日本茶機能の多様性ととも紹介 (仮称)
7月	三重県	三重県ウィーク (仮称)	10月	新潟市 (新潟県)	“水と土”と“湊まち”からの食文化創造 (仮称)
	和歌山県	和歌山県の日 (仮称)		鶴岡市 (山形県)	名称検討中 (鶴岡の風土と食文化)
	JAグループ②	各国の「農業生産の多様性」と「食生活の多様性」を認め合い尊重する		2015年ミラノ国際博覧会北海道実行委員会	名称検討中
	兵庫県	ひょうごウィーク『「ひょうご五国」の「農」「食」「観光」の魅力の世界に発信』 (仮称)		山形県	名称検討中
	小浜市 (福井県)	① 和食文化を伝える『キッズ・キッチン』 ～「いただきます」 「ごちそうさま」のある暮らし～ ② 「日本のお箸」 ～自分で作る世界に一つだけの若狭塗箸～		福島県	名称検討中
	2015年ミラノ国際博覧会・東北出展委員会 (岩手県／宮城県／石巻市／一般社団法人東北経済連合会)	名称検討中		石川県／静岡県／熊本県／大分県／新潟県 (世界農業遺産広域連携推進会議)	名称検討中
	JTAAジャパンテーブルアーティスト協会	お正月に見る日本の食文化 お雑煮、お節料理とお酒 (仮称)		新潟県	新潟米P R イベント (仮称)
8月	富山県	名称検討中 (富山県の食、観光の魅力を発信する)		福井県	名称検討中
	愛知県／名古屋市	あいち・なごやフェア in Milano (仮称)		JAグループ③	各国の「農業生産の多様性」と「食生活の多様性」を認め合い尊重する
	一般財団法人地球産業文化研究所	ミラノ博覧会の愛・地球博成果継承発展事業 (仮称)			

■ 日本館建築工事が進行中

6月16日の着工記念式典以降、着々と日本館の建築工事が進みつつあります。

日本館の建築には「立体木格子」という手法を採用しています。これは、法隆寺など日本の伝統的な木造建築に見られる木材同士の「めり込み作用」を現代の解析技術により応用した構造物で、まさに日本の伝統文化と先端技術の融合による革新的な手法と言えます。

先日、国産材の立体木格子を使ったモックアップ（模型）をイタリアで制作しました。建築担当者によると、イタリアの職人の仕事は想像以上に丁寧とのこと。複雑な形状が、立体的で奥行きある陰影をつくり出しており、日本館の印象的な外観を形作ることが期待されます。



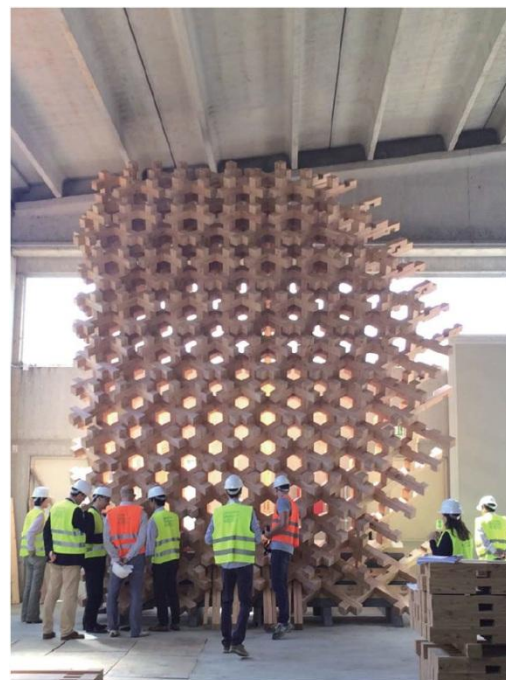
日本館敷地



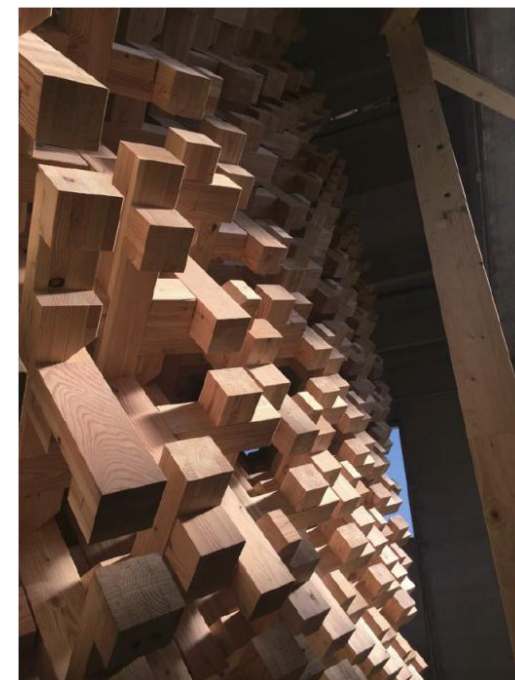
工場内には両国の国旗が



大屋根取付後のデクマヌス（中央大通り）



立体木格子モックアップ



■ミラノ万博関連ニュース

・女性の視点で食を見直すプロジェクト「Women for Expo」がスタート

女性の視点で食を見直すプロジェクト「Women for Expo (WE)」がスタートしました。女性が持つ食にまつわる知識や風習だけでなく、他者へのおもてなしの心などが、食と文化の新たな関係性を気付く原動力になると期待されています。会期中には、地域、文化、年齢にかかわらず、全ての女性を対象として、それぞれの“人生のレシピ”を共有するイベントが開催されます。開催初日に「Women for Expo」大使が一堂に会し、オリジナルな手料理を持ち寄るパーティーが開催されるほか、女性による会議や憲章の制定などが予定されています。



・緑あふれるミラノ万博会場、ランドスケープデザインが公開

20万㎡に達するミラノ万博会場は、1万2,000本もの樹木のほか、8万5,000本の灌木、10万7,000本の水生植物、15万1,700もの草木が緑あふれる景観を作り出します。サーラ ミラノ万博公社代表は、「ミラノ万博会場の建設は、ランドスケープの向上、生物多様性の増加などに貢献するだろう」と述べています。



・ミラノ万博公社、写真展「Discover the other ITALY」公式スポンサーに

ミラノ万博公社は、9月30日よりサルデーニャ島のオルビア・コスタ・スメラルダ空港内のアートポートギャラリーにて開催される写真展「Discover the other ITALY」（もうひとつのイタリア）の公式スポンサーになったことを発表しました。本展は、イタリア国内で活躍する100名以上の写真家の中から選ばれた、21名による写真、210作品を展示するもので、イタリアの街並みや瞬間、忘れられつつあるアートや伝統が描かれています。この時期に訪れる多くの観光客に、イタリアの新たな一面を再発見してもらうだけでなく、全ての地名をキャプションで示した旅行日誌と合わせて、来年ミラノ万博会場でも展示される予定です。



■ミラノ万博関連イベント

・万博の情報発信拠点「INFO POINT」がビーチをキャラバン、観光客にアピール

ミラノ万博の情報発信拠点「INFO POINT」が、8月14日～9月7日の間、イタリア国内21カ所のビーチをキャラバンカーで巡回します。イタリアでバケーションを楽しむ多くの観光客に対し、クイズや写真撮影などを通じてミラノ万博を知ってもらう催しです。また、夏が終わったあとは、12月から1月にかけて、海から山へ会場を移し、イタリアのスキーリゾート地をめぐるキャラバンも予定されています。イタリアを訪れる多くの観光客に向け、万博情報が随時発信されています。



■イタリア国内関連ニュース

・イタリア・レンツィ首相が万博会場予定地を初訪問

イタリアのマッテオ・レンツィ首相は今月、万博予定地を初めて訪問し、現状を視察しました。レンツィ首相は建築関係者を激励しつつ、「彼らはただ建物やパビリオンを建てているわけではない。私たちの国に自信の源を与えてくれている。万博はイタリアの再生のみならず、私たちの未来を変えると信じている。私たちは2015年5月1日に全て整うよう、全力で準備に取り組んでいる」と述べました。合わせて、「私たちのゴールは、最終的に2,400万枚のチケットを販売することだ。同時に、万博の開催前に1,000万枚は販売したいと思っている」と意気込みを語りました。



・万博チケット、イタリア国内で250万枚がすでに完売

イタリアのマルティナ農業大臣は今月、ミラノ万博のチケット国内販売数が250万枚を超えたことを明らかにしました。ミラノ万博公社はこれまでに合計で500万枚のチケットが完売したと発表しており、イタリア国内でその過半数を超えたことになります。

